Annual Activity Report

2018-2019

認定NPO法人テラ・ルネッサンス / 2018年度年次報告書



Terra Renaissance

ひとり一人に未来をつくる力がある

認定NPO法人 テラ・ルネッサンス









活動地域を拡充、支援の手を広げて



理事長
海外事業部長
ブルンジ事務所長
小川真吾

2018年度は、コンゴ民主共和国の中央カサイ州に事務所を開設し、同地で発生した大規模な紛争により、住む場所や家族を失った女性たち280名への生活再建の支援を行うなど、今なお続くアフリカの紛争で被害を受けた女性や元子ども兵、国内避難民などへの自立支援を強化することができました。また、ラオスにも日本人駐在員を派遣し、最貧困層世帯の自立を促進するための事業立案に着手するなど、活動の幅を広げることができました。こうした活動を支えてくださった日本の皆さまに心より感謝申し上げます。

いま、自分にできることを、実践する



創設者・理事
事務局長
佐賀事務所長
鬼丸昌也

「すべての生命が安心して生活できる社会（世界平和）の実現」というビジョンを追求するために世界6カ国で支援を展開できるのも、そのビジョンに共感し、応援くださる支援者の皆さまのおかげです。「いま、自分にできることを、実践する」という、積極的にテラ・ルネッサンスと関わってくださる方々の存在は、弊会の「強み」であるといえます。その「強み」をさらに活かして市民による平和を実現する「取り組み」をつよく、しなやかに展開していきます。

少しずつ支援の成果が見えはじめた一年



理事
アジア事業マネージャー
カンボジア事務所長
江角泰

アジア事業では、これまで皆さまにご支援いただいたおかげで、少しずつ成果が見えはじめた一年でした。村人たちに代わってお礼を申し上げます。これまで換金作物の栽培で失敗して多額の借金を抱え、出稼ぎに行くしか生きる術を知らなかった村人のなかには、すでに借金を完済し、村のなかで自立して生活できるようになった人もいます。これからも地雷や不発弾によって影響を受けてきた人たちが、様々な困難に遭いながらもレジリエンスを高め、「自立」と「自治」を達成できるように、サポートできればと思います。

スタッフ一覧 - 世界で活動する仲間たち -

本部事務局(京都)


創設者・理事
事務局長・佐賀事務所長
鬼丸昌也


事務局次長
啓発事業部長
小田起世和


啓発事業部
講演企画・支援連携 担当
栗田佳典


啓発事業部
支援者サービス 担当
上野知子


管理部長
隅田千恵


管理部
牧野由起子


啓発事業部
法人連携 担当
藤森みな美

佐賀事務所


啓発事業部
オンラインマーケティング
佐賀事業 担当
島 彰宏

本部事務局インターンシップ(研修生)


田畑勇樹


福井妙恵


佐藤幸恵


和泉羽美


河野賢太


中野みなみ


野田歩美


渡邊有衣

大槌事務所


理事・大槌事務所長
大槌復興刺し子プロジェクト
マネージャー
吉田真衣


生産管理担当
佐々木加奈子


販売管理担当
佐々木静江


会計担当
黒澤かおり

カンボジア事務所


理事・カンボジア事務所長
アジア事業マネージャー
江角 泰


販売支援・裁縫技術担当
サムリット・ラウ


プロジェクトオフィサー
リー・サリアップ


ドライバー
アシスタント
カーイ・サロン


フィールド事務所警備員補佐
家畜飼育担当
ソーン・サヴィ


プロジェクトコーディネーター
クン・チャイ


販売支援担当
ヨート・イェト


事務所警備員
ホウト・ヒアト


フィールド事務所警備員
チュン・ソーン


ドライバー
アシスタント
ヴィート・ヴィ

ラオス事務所


アジア事業
サブマネージャー
鎌田久美子


プロジェクトコーディネーター
センケオ・シーソンブン


プロジェクトオフィサー
ノックナー・ビムミーサイ

コンゴ事務所


理事長・海外事業部長
ブルンジ事務所長
小川真吾


コンゴ事務所長
テオフィー・チシバンジ


アフリカ事業
コーディネーター
トシャ・マギー


洋裁訓練講師
デオ・カハリ


会計補助
マオンビ・カンツ・ジョングリ


フィールドスタッフ
ジョセフィン・ブクル


フィールドスタッフ
クロビス・チンゴンベ

倉庫管理担当
ジャンピエール・チルフラ

フィールドオフィサー
ムケカ・ルイス

フィールドスタッフ
マタパノ・ルワバグマ

倉庫管理担当
エマニュエル・ントゥバ

セクレタリー
カニィンダ・ロジャ

フィールドスタッフ
ピーター・バセネネ

警備員
フォーステン・チャブィヌエ

ドライバー
イルンガ・ジャンルック

ブルンジ事務所

アフリカ事業
サブマネージャー
古岡 薗

プロジェクトコーディネーター
エジマナ・パシフィック

ドライバー
マサボ・ティエリ

セクレタリー
ンデレイマナ・フェリキール

養蜂訓練講師
ムサ・ナンシュティ

洋裁訓練講師
ニヨンサバ・ディアン

トレーニングオフィサー
ムレルグワ・ゼノン

清掃員
マニラキザ・アナニアス

フィールドオフィサー
ジョゴリ・ディオメッデ

ヘアドレッシング訓練講師
ドゥセンゲ・ディウドン

フィールドオフィサー
ミナニ・フレデリック

ウガンダ事務所

アフリカ事業
マネージャー
鈴鹿達二郎

ウガンダ事務所長
オテマ・ジミー

能力向上支援担当
(木工大工訓練講師)
オドン・ベンソン

ドライバー
マイク・オドンゴ

能力向上支援担当
(洋裁訓練講師)
アニェコ・ビッキー

能力向上支援担当
(洋裁訓練講師)
オコト・ジョセフ

心理社会支援担当
オジャラ・サンデー

BHN支援担当
オチャカ・グレース

BHN支援担当
アティム・クリスティーン

管理補佐
オケロ・リチャード

セキュリティ担当
オチャカ・ジャコブ

セキュリティ担当
オモヤ・チャールズ

管理・会計補佐
アワチャンゴ・コンシネイト

プロジェクトコーディネーター
(南スーダン難民支援)
ジェームズ・カオ

管理・会計補佐
ミシェル・ビチュラ

調理清掃担当
アシアンゾ・ジャネット

ドライバー
アイェラ・ジョージ

編物訓練講師
エヴァリン・リミオ

洋裁訓練講師
オダマ・マイケル

BHN支援担当
アケチ・エヴァリン

調理清掃担当
マコミコ・サラ

セキュリティ担当
エベル・ピーター

編物訓練講師
ムングディア・ジェーン

洋裁訓練講師
アクル・ジョアン

木工大工訓練講師
エデマ・ジェームズ

フィールドスタッフ
シティマ・ケミス

セキュリティ担当
ドゥク・ジョージ

レンガ積み工訓練講師
カカク・キジト

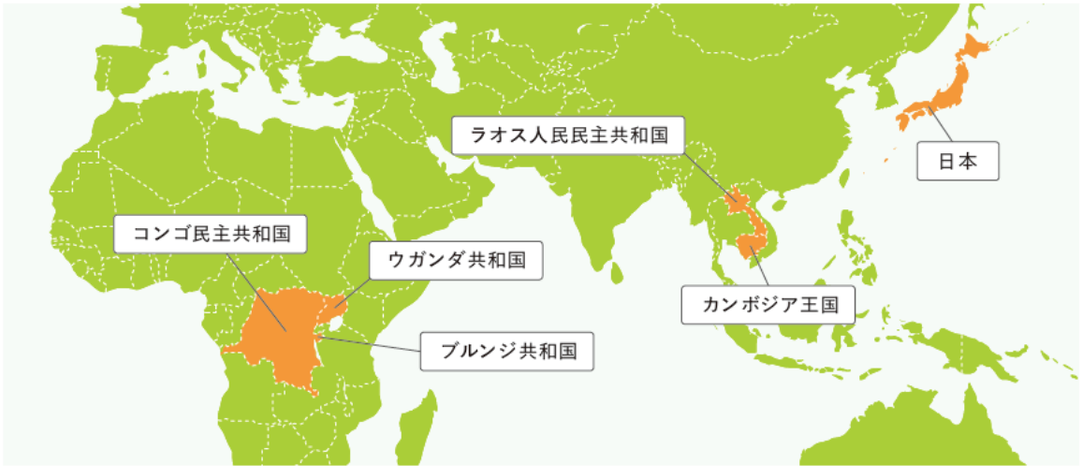
レンガ積み工訓練講師
アリア・カディジャ

木工大工訓練講師
エチマ・アイザック

フィールドスタッフ
ステラ・バヨア

セキュリティ担当
アイザック・ビル

活動地域・内容 / 解決に取り組む課題



コンゴ民主共和国	●元子ども兵及び紛争被害者エンパワーメントプロジェクト ●元子ども兵および孤児への教育支援プロジェクト ●紛争被害女性の生計向上支援フォローアッププロジェクト ●子どもの徴兵予防プロジェクト ●分野横断型職業訓練センター建設及び紛争被害女性エンパワーメントプロジェクト
ウガンダ共和国	●元子ども兵社会復帰支援プロジェクト ●元子ども兵社会復帰支援プロジェクトにおける長期的インパクト評価事業 ●農業・畜産支援による貧困削減事業に係る後方支援事業 ●難民居住区におけるPSNsに対するオーダーメイド型人道支援プロジェクト ●難民居住区及びホストコミュニティにおける自立支援プロジェクト
ブルンジ共和国	●農村部コミュニティにおける社会的弱者(EVIs)世帯の自立と自治支援プロジェクト ●紛争被害者及び最貧困層住民の能力開発を通したコミュニュティーレジリエンス向上プロジェクト　フェーズ2～生産者協同組合の基盤整備支援～
カンボジア王国	●地雷埋設地域村落開発支援プロジェクト　●地雷撤去支援プロジェクト ●地雷埋設地域の脆弱な障害者家族への生計向上支援プロジェクト ●学校修理プロジェクト
ラオス人民民主共和国	●不発弾汚染地域における養蜂の技術向上と普及を目指した“farm miel”プロジェクト
日 本	●啓発活動(講演、ワークショップ、スタディツアー、パネル展示など) ●政策提言(武器貿易条約締結に向けたキャンペーン及び政策提言活動など) ●東日本大震災復興支援活動(ともつな基金／大槌復興刺し子プロジェクト)


地 雷


小型武器


子ども兵

＋


平和教育

目的の世界 テラ・ルネッサンスの目的（ヴィジョン）

すべての生命が安心して生活できる社会(＝世界平和)の実現

使命の樹 テラ・ルネッサンスの使命（ミッション）

当会の事業を通じ、人々に『次世代に対する責任』を啓発し、
それぞれが個人、家庭人、社会人、そして地球市民として、
未来の子どもたちの生活をも視野に入れた生活(簡素な生活)を
実践することにより、人類共通の理想『世界平和』を実現する。

理念の土壌 テラ・ルネッサンスの活動理念

1. 私たちは一人ひとりに「未来をつくる力」があると信じ、市民の可能性を追求しています。
2. 私たちは内なる変化がすべての変化の始まりであり、変革の主体者は私自身であることを理解しています。そして、他人も変革の主体者であることを理解し、相手を尊敬しています。
3. 私たちはあらゆることは常に変化することを理解し、あきらめずに活動し続けています。



ひとり一人に未来をつくる力がある

テラ・ルネッサンスのすべての活動は、設立目的(ヴィジョン)を追求するために行われます。
ヴィジョンを達成するために、責任を持って果たさなければならない任務が使命(ミッション)です。
そして、すべての活動の指針となるのが、活動理念です。

2018年度 活動成果のトピックス

2018 → 2019 Action Topics

果汁100%のジュースは地元のホテルでも大人気！

コンゴ民主共和国 → P21,22

性暴力被害にあった女性280名が、製品の生産販売による収入源を確保

現地の資源を活用し、農作物の一次加工、パイナップルジュース、石鹸などの生産・販売における技術の習得とともに、収入源を確保することができました。





ウシ、ヤギ、にわとり家畜の種類は色々

カンボジア → P12

地雷被害者など100世帯へ、家畜飼育などの生計向上支援を実施

家畜飼育、野菜栽培の支援を実施。多様な収入源を確保するとともに、自ら消費することで支出を抑えることができ、バランスの良い生計に変化しています。

難民としての暮らしから自立した暮らしへ変化

ウガンダ：南スーダン → P25

南スーダンの難民など38名が、洋裁などの技術で収入を得られるように

訓練を修了した第1期生に対して、資機材の供与や、難民居住区内への洋裁店などの開設を実施。ビジネス講習などを経て、収入を得られるようになりました。





森林を保全し、自然と共生する

ラオス → P15

養蜂の技術訓練を実施、昨年の3-7倍のはちみつを収穫

クラスター爆弾の不発弾汚染地域に住む住人を対象に、養蜂の技術訓練を実施。巣箱の使い分けなどを要因として、収穫量が増加。村人たちに主体性が芽生え、持続可能な産業に発展しつつあります。



ヘアサロンや洋裁店も開業

ブルンジ → P17

シングルマザーなど41名が技術訓練の最終試験に合格

養蜂・洋裁・ヘアドレッシングの技術訓練を実施。10ヶ月間の訓練を経て、収入を得るために必要な技術や知識を習得。対象者の41名全員が最終試験に合格し、収入向上と、自立と自治の促進に寄与しました。



大槌復興刺し子プロジェクト → P28

刺し子商品の販売などから、約1,450万円を売上ました

岩手県大槌町で東日本大震災により被災した女性の生活再建と生きがい創出を目的に活動。刺し子商品を生産し、催事やインターネットなどで販売。刺し子さんへの工賃として、約280万円をお支払いできました。

大槌刺し子と企業とのコラボレーションも

今の自分にできる支援があります



啓発事業 → P32

めぐるプロジェクト（回収支援）に、10,988名・団体が参加

ふるさと納税（寄附）の支援で、約1,200万円が集まる。

多様な支援の窓口から、たくさんの方にご支援・活動への参加をいただきました。



JICA草の根パートナー事業の障害者100世帯を対象にした活動のひとつで、
家庭菜園で有機野菜を栽培し、1日平均320円の収入を得る地雷被害者のペッチ・サルンさん。

村人たちが驚いた、発酵薬を活用した飼育方法
5羽の鶏を150羽まで繁殖させることに成功！



障害者100世帯への生計向上支援の対象者であるメイ・ソーンさん。家畜銀行のうち、鶏の飼育に苦戦をしている家庭が多いなか、貸し出された5羽の鶏を150羽まで繁殖させ、これまでに21,200円の収入を得ています。

ソーンさんが繁殖に成功した原因は、訓練で教えた薬草の発酵薬を使う飼育方法を実践したことにありました。実際に飼育方法の違いを見てもらうために、ソーンさんの家で、受益者同士が学びあうワークショップを実施しました。

「この発酵薬は、ヤギや家庭菜園にも使えて、さらに死にかけた犬やアヒル、蛙などの病気をも治してしまう」と話すソーンさんに、他の受益者たちは非常に驚き、その飼育方法を見習いはじめました。

国際協力事業 アジア

2018 → 2019 Asia Region Project CAMBODIA LAOS

アジアでは、カンボジアとラオスの2か国で、地雷＆不発弾撤去を進めるとともに、地雷や不発弾の被害者を含めた障害者世帯やコミュニティへの生計向上や教育支援を実施してきました。カンボジアでは、引き続き機械チームの運営費を提供し、地雷撤去活動を進めることができました。また、地雷埋設地域の3村において、村人たちの「自立」と「自治」を目指した村落開発支援を実施し、村の農業専門家の育成、家畜銀行の設立、野菜栽培訓練などの活動を行いました。バッタンバン州カムリエン郡の地雷被害者などの障害者100世帯への生計向上支援は、2年目の活動を実施しました。また、ラオスでは、シエンクアン県において、不発弾汚染地域の2村を対象に養蜂事業を実施しました。



［ カンボジア事務所 ］
理事・アジア事業マネージャー
カンボジア事務所長
江角 泰

課題と展望

自立に向けた、持続的なサイクルの構築を目指して

カンボジアでは、生計向上支援として取り組む、家畜銀行に重きを置いています。家畜銀行から貸し出された家畜が子を産み繁殖、親となる家畜を返却し、さらに貸し出す…というサイクルが軌道に乗るまで、フォローアップを継続し、訓練した内容を実践できるように努めていくことが重要になっています。家畜に問題がある場合や、病気、不慮の事故などに迅速に対応していくことで、家畜銀行のサイクルを軌道に乗せ、それぞれの家庭で家畜を繁殖できるようになることを目標にしています。そのために、訓練した技術を実践できるよう近所でグループを結成し、共同で発酵薬を作ってもらい、管理するサポートをしましたが、これらの作業も村人たちだけで継続できるようになることを目指します。ラオスの養蜂事業では、養蜂センターのショールームのリノベーションが遅れていましたが、2019年6月に完成したあとは、そこでの製造・販売などを行うことにより、村人たちの養蜂グループが持続的に活動していく仕組みを構築します。

① ［ カンボジア ］ 地雷埋設地域の脆弱な障害者家族への生計向上支援プロジェクト

事業の目的	地雷埋設地域に住む 障害者の生計向上	事業地域	カンボジア/バッタンバン州
受益者数(累計)	105世帯（JICA草の根 パートナー事業100世帯）	事業実施期間	2017年4月～2020年12月
受益者カテゴリー	地雷埋設地域に住む貧困層の地雷被害者などの紛争被害者を含む障害者家族		



牛など家畜銀行の充実から、生計向上を目指して

バッタンバン州カムリエン郡に住む障害者100世帯を対象にした生計向上支援プロジェクトは、今年で2年目にはいりました。グローバル経済のリスクとお金に関するワークショップを開催し、理解度テストでは、9割以上が内容を理解しています。毎月2種類の野菜栽培訓練と家畜銀行では、牛、やぎ、鶏、ハリナシミツバチの飼育訓練を2年目の飼育対象世帯へ実施しました。2年目終了時点で、ヤギの対象89世帯で平均530円/月、鶏の対象90世帯で平均44円/月の収入が確認されました。これは事業終了時に目標としている月の平均収入4,300円以上の13.2%にあたります。またJICA事業の対象になっていない障害者2世帯へも牛銀行を設立し、雌牛を1頭ずつ貸し出しました。





1 ヤギと牛用の固形栄養補給剤の製作ワークショップを終えて、自分たちで製作した栄養補給剤を持って帰る受益者たち。
2 家畜や野菜栽培にも使えるカンボジアの薬草を利用した発酵薬作りを近所のグループで実施するワークショップの様子。
3 ヤギを繁殖させ、毎日世話をする地雷被害者のミィ・マンさん。

② ［ カンボジア ］ 地雷埋設地域村落開発支援プロジェクト

事業の目的	地雷埋設地域の貧困削減。地雷被害者や、元子ども兵、 小型武器の被害者を含む戦争被害者が、自立して生活できるようにサポートを するとともに、新たな地雷・不発弾事故を防止すること		
事業地域	カンボジア/バッタンバン州	受益者数(累計)	約400世帯
受益者カテゴリー	地雷埋設地域に住む貧困層の村人 地雷被害者などの紛争被害者など	事業実施期間	2006年10月～継続中







野菜栽培により支出を削減することで、収入向上とあわせた生計向上の改善を実現

ロカブッス村では、モデルファームの建設を支援し、土地と家がない最貧困層の2世帯へ、家の建設支援をしました。95世帯中71%が支援した野菜栽培をしています。家畜銀行では、これまでに牛、ヤギ、豚、鶏、アヒルなど29世帯へ貸し出し、2018年度は、4世帯へ豚の貸し出しを開始しました。プレア・プット村では野菜栽培訓練を実施し、ヤギ銀行では7世帯が飼育し、ヤギの販売で収入を得ています。また鶏銀行を設立し、4世帯が飼育しています。また小学生の授業と給食を28名の貧困層の子どもたちへ提供しました。サムロン・チェイ村では、これまでに牛銀行で4世帯が順調に牛を飼育しています。ブオ・ソンクリアチ村では、小学校の図書室司書、幼稚園の教員への給料を提供しました。

1 ロカブッス村の村人が、家の裏で育てたきゅうり。
2 ロカブッス村の豚銀行から貸し出された豚から30頭の子豚が生まれ、子豚を販売して100,800円の収入を得たミアク・パットさん。
3 ロカブッス村の鶏やアヒルの飼育者を対象に実施した薬草を使った発酵薬の製作ワークショップの様子。

3 ［ カンボジア ］ 地雷撤去支援プロジェクト

事業の目的	地雷による脅威を削減することで、地雷被害を受けた カンボジアの農村地域の社会経済復興に寄与する		
事業地域	カンボジア / 北西部地域	受益者数(累計)	約15,186名、3491世帯
受益者カテゴリー	地雷原と地雷原周辺に住む村人	事業実施期間	2001年～継続中

地雷撤去から、東京ドーム12個分の土地を安全に

当会がカンボジアで提携している地雷撤去団体MAGに対して、地雷撤去活動ができるように灌木を除去する機械チームの運営費を提供しました。これによって、バッタンバン州サムロート郡とラタナ・モンドル郡で、機械チームが操縦する「ボブキャット」という灌木除去機で、429,146㎡の土地の撤去活動ができるように整備しました。また、地雷探知犬チームと一緒に活動することで、29発の危険物を処理し、東京ドーム12個分に当たる561,092㎡の土地を安全にすることができました。この機械チームの活動により、当初予定していた406世帯、2,058名への受益者数を大きく上回る3,123世帯、12,870名に安全な土地を提供することができました。



4 ［ カンボジア ］ 学校修理プロジェクト

事業の目的	地雷埋設地域に住む子どもたちへの初等教育の機会の提供		
事業地域	カンボジア / バッタンバン州	受益者数(累計)	小学生188名
受益者カテゴリー	元地雷原に住む貧困層	事業実施期間	2018年7月 ～ 9月

学校の補修改善によって、カンボジアの子どもたちが安心して勉強できるように

バッタンバン州バヴェル郡サムロン・チェイ村にて、当会が2008年に建設した穂高小学校で、屋根が雨漏りしていたため、屋根の補修工事を実施しました。これにより特に雨季の時期に、雨漏りの心配をすることなく、188名が安心して授業を受けることができるようになりました。学校の先生や生徒たちは、教室に雨水が溜まって授業が難しくなる状況がなくなり、とても喜んでいました。

5 ［ ラオス ］ 産学民連携による持続可能な森林保全のための自然共生型産業の普及活動
ラオス不発弾汚染地域における養蜂の技術向上と普及を目指した“farm miel”プロジェクト

事業の目的	不発弾汚染地域でも安全に活動ができ、森林を保全し、自然と共生しながら、 直接的な森林利用の代替となる自然資源を活用した産業を確立する		
事業地域	ラオス / シエンクアン県	受益者数(累計)	66世帯
受益者カテゴリー	不発弾汚染地域に住む住民	事業実施期間	2017年10月～ 2019年9月



養蜂・はちみつが、持続可能な産業として発展

事業対象の2つの村において、はちみつの収穫が行われました。昨年の収量に比べて3倍から7倍に増加し、養蜂組合メンバーの村人たちは驚きと嬉しさを胸に、はちみつの精製、製品化を目指して日々取り組んでいます。収量の大幅な増加の背景には、ラオスの伝統的な巣箱に加え、このプロジェクトで導入した日本の重箱式巣箱をうまく使い分け、それぞれの巣箱の特徴の良さを活かして取り組んだことがあげられます。収穫後は、シエンクワンの中心地に設立した養蜂センターにて、はちみつの製品化、販売を行っていきます。養蜂組合メンバーをはじめとした村人たちの主体性が芽生え、養蜂、はちみつが持続可能な産業のひとつとして成立しつつあります。





1 巣箱の中の蜜蜂の様子を確認するムアン村の村人（写真：右）と農林局の養蜂専門家（写真：左）。
2 ポンカム村で養蜂組合の設立に関して話し合いをする村人たち。
3 防護服や手袋をつけ、蜂蜜を収穫する訓練の様子。



かつて武装グループの襲撃により親を殺されたンテゥルマンバ村の女性たち。
子ども時代から紛争の影響を受け続け、親を失い、食べ物もなく、男性からの暴力や、
様々な苦難を乗り越え、当会の洋裁技術支援も通して、小さな幸せを手にすることができました。

「生まれてはじめて、生きる喜びを感じることができました」
紛争被害にあった女性からのメッセージ



「何もかも無くしてしまった私たちに、洋裁技術とミシンをご支援いただき、本当にありがとうございます。私は、子どもの頃この村で起こった紛争で、武装勢力に親を殺害され、孤児になりました。それからというもの食べるものもなく、その日を生きるのが精一杯の子ども時代を過ごし、生きていく意味すらわからず絶望していました。しかし皆さまからのご支援のおかげで、私はいま、生まれてはじめて生きる喜びを感じることができています。現在、私は自分の衣食住だけでなく、子どもに栄養のある食べ物を食べさせたり、自分が作った服を子どもに着せることもできています。私にこんな人生を与えてくれた皆さまに、心から感謝します。これからも、日本からカロンゲへの支援を続けていただけることを心からお祈りしています。」

国際協力事業 アフリカ

2018 → 2019 AFRICA REGION PROJECT UGANDA CONGO BURUNDI

ウガンダでは元子ども兵34名への自立支援をはじめ、過去に支援をした元子ども兵を対象とした後追い調査を行いました。加えて、同国の南スーダン難民と近隣住民を対象に、自立支援及び緊急支援物資の配布を実施しました。コンゴ東部では、紛争被害女性や最貧困層世帯が洋裁技術、家畜飼育を通して収入を得られるようになったほか、250名の孤児や元子ども兵に初等教育の機会を提供しました。また、中央カサイ州に現地事務所を開設し、紛争被害女性280名を対象に石鹸・ジュース作り、洋裁、農作物の一次加工技術の訓練を提供し、新たな収入源を創出しました。ブルンジでは、社会的弱者41名に自立支援を行ったほか、これまで支援してきた養蜂・窯業組合員に組織運営能力の強化支援等を行い、日々課題を乗り越え、自立と自治を促進することができました。



理事長
海外事業部長
ブルンジ事務所長
小川 真吾

課題と展望

丁寧なフォローアップによって支援の最適化を図る

ウガンダでは、南スーダン難民と近隣住民が自立に向けてともに職業訓練に取り組み、そのなかで自立の精神を養い、洋裁店や木工所を開業した後は、個々の状況に応じたフォローアップが必要となります。

コンゴ東部では、家畜飼育をはじめた最貧困層世帯がさらに収入を向上し、衣食住や子どもの教育費を自ら賄えるようになること、洋裁ビジネスを開始した紛争被害女性50名が、持続的に収入を得ることが、今後の課題です。中央カサイ州では、紛争被害女性が生産する石鹸等の生産性の向上・販売量の増加に加え、それらを他の脆弱な地域に住む女性が小売販売する仕組みを作ることが課題となります。

ブルンジでは、養蜂・洋裁・ヘアドレッシング技術を得た対象者が、グループで収入を安定的に得られることに加え、養蜂・窯業組合が自らの力だけで組合を円滑に運営できるように、継続的なフォローアップが必要です。

① ［ コンゴ ］ 元子ども兵及び紛争被害者エンパワーメントプロジェクト

事業の目的	性的暴力の被害女性やシングルマザーなど紛争の影響を受けた最も脆弱な女性が洋裁技術を習得し、それにより基本的ニーズを満たすだけの収入を得られるようになること		
事業地域	コンゴ/東部、南キブ州 カレヘ行政区、カロンゲ区域	受益者数	50名
事業実施期間	2018年4月～2019年3月		
受益者カテゴリー	紛争の影響を受けた脆弱層女性（性的暴力の被害女性、寡婦、孤児、最貧困層）		



洋裁技術の習得から、収入を得られるように

洋裁ビジネスを開始するための資機材を供与し、対象者の居住地近隣の洋裁店への就職斡旋を行うとともに、近隣に洋裁店がない受益者に対して新規に洋裁店の設置・開業支援を行ったほか、店の運営方法やビジネスの個別指導を実施しました。それにより、対象者が洋裁ビジネスにより収入源を確保し、平均約1,800円の月収を得ることができています。また、昨年度まで実施してきた自給食料を生産するための農業・農場運営支援、溶接所の運営支援はモニタリングのみを行い、今年度も自給食料を確保するとともに余剰作物の販売により現金収入を得ることができています。加えて、溶接所を運営する元子ども兵も安定した収入を得ることができています。





1 洋裁技術を習得しミシンを受け取った受益者たち。 2 洋裁店の運営方法を話し合う現地スタッフと受益者。
3 共同農場（グローブファーム）で生産に励む受益者。

② ［ コンゴ ］ 元子ども兵および孤児への教育支援プロジェクト（グローブエデュケーションプログラム）

事業の目的	紛争下で暮らす孤児や元子ども兵たちへの初等教育の機会を提供すること		
事業地域	コンゴ/東部、南キブ州 カレヘ行政区、カロンゲ区域	受益者数（累計）	250名
受益者カテゴリー	元子ども兵及び孤児	事業実施期間	2018年4月～2019年3月

孤児などの子どもたちへ、初等教育を提供

対象者が小学校へ通うために必要な学費などを提供するとともに、対象者の受け入れ家族へ初等教育の必要性の理解を促す啓発活動を行いました。対象者の全員が初等教育を受けられたことによって、子どもたちの識字・算数能力などの基礎学力が向上しました。

一方で、受け入れ家族も初等教育の必要性を理解しつつも経済的に貧しく、持続的に教育を続けていくためには受け入れ家族の生計向上が不可欠であるため、今後は直接的に子どもの初等教育を支援する段階から、受け入れ家族の収入源を確保するための自立支援の必要性が確認されました。



③ ［ コンゴ ］ 紛争被害女性の生計向上支援フォローアッププロジェクト

事業の目的	生産者協同組合を通した乳製品の販売が促進され、対象者の生計が向上すること		
事業地域	コンゴ/東部、南キブ州、 ウビラ行政区、イタラ区域	受益者数（累計）	250名
受益者カテゴリー	紛争の影響を受けた脆弱層女性 （寡婦、国内避難民、最貧困層）	事業実施期間	2018年4月～2019年3月

昨年度の事業により設立された協同組合員を対象に、乳製品の販売促進のための生産技術の補完研修、必要な資機材の供与、組合の管理方法についての研修を実施しました。活動地域の治安の悪化により、施設から離れた場所に居住する受益者が活動に参加できない時期が発生し、現地職員のモニタリングが不十分となる問題に直面しましたが、昨年度に比べると取引される乳製品の販売量は増加し、全体として、対象者の生計は向上しています。

4 ［ コンゴ ］子どもの徴兵予防プロジェクト（ふるさと納税対象事業）

事業の目的	紛争下で暮らす元子ども兵及び孤児の受け入れ家族が収入源を確保し、 子どもの徴兵を予防すること		
事業地域	コンゴ/東部、南キブ州 カレヘ行政区、カロンゲ区域	受益者数(累計)	25世帯
受益者カテゴリー	元子ども兵及び 孤児を抱える世帯	事業実施期間	2018年4月～2019年3月


1


2


3

収入面などの生活状況の改善によって、子どもの徴兵を予防

断続的な紛争の継続を背景として、生活状況が厳しい世帯の子どもたちは、武装グループの勧誘や半強制的な徴兵のターゲットにされる危険にさらされています。

そこで、子どもの徴兵を予防するために、孤児や元子ども兵の対象世帯へ、生計向上を図るために家畜（ヤギ・モルモット）の提供及びその飼育方法・繁殖技術の訓練を実施し、小規模ビジネスの指導を行いました。現時点で家畜の死亡はなく、順調に飼育は進んでおり、18世帯はすでに繁殖に成功し、家畜の販売を開始しています。今後、対象者が飼育と繁殖・販売を継続して収入を向上し、それにより子どもの学費など基本的ニーズを満たしていくことが次年度の目標となります。

1 夫を紛争で亡くし、子どもたちの学費を貯めるために家畜飼育を始めたシングルマザーの女性。
2 家畜飼育の研修を受けたのち、ヤギを受け取る受益者たち。
3 家畜の飼育を手伝う孤児。

5 ［ コンゴ ］紛争被害女性のエンパワーメントプロジェクト（中央カサイ州 / ビクク地区）

事業の目的	受益者が職業技術を習得し、基本的ニーズを満たすための収入源を確保すること		
事業地域	コンゴ/中央カサイ州、 カナンガ市、ビクク地区	事業実施期間	2018年10月～2019年6月
受益者数(累計)	直接受益者120名、間接受益者807名（直接受益者の家族）		
受益者カテゴリー	紛争被害女性（寡婦、国内避難民、孤児など）		


1


2

収入向上のためのオリジナル商品を開発

国連開発計画（UNDP）の協力のもと、新しく中央カサイ州にも事務所を開設しました。そこで、対象者には3つの職業訓練（農作物の一次加工20名、パイナップルジュース作り50名、石鹸作り50名）を行い、それぞれの製品化と、ブランディング支援及び販売システムの構築を支援しました。それにより、受益者全員がそれぞれの職業技術を習得するとともに、製品の生産・販売を開始し、収入源を確保することができました。また、全5グループ（石鹸生産25名×2グループ、ジュース生産25名×2グループ、農作物一次加工1グループ20名）の運営管理体制が整備され、自主的な運営が開始されています。



3

1 農作物の一次加工技術の訓練に励む受益者たち。 2 ジュース作りの訓練に励む受益者たち。
3 受益者たちが生産・製品化し、地域で販売されるようになったパイナップルジュース。

6 ［ コンゴ ］分野横断型職業訓練センター建設及び紛争被害女性のエンパワーメントプロジェクト（中央カサイ州 / 20Mai 地区）

事業の目的	①紛争被害女性が生計を向上するために最適な知識と技術を包括的に提供する分野横断型職業訓練施設が整備されること、②受益者が職業技術を習得し、基本的ニーズを満たすための収入源を確保すること		
事業地域	コンゴ民 / 中央カサイ州、カナンガ市、20Mai 地区	事業実施期間	2018 年 9 月～2019 年 5 月
受益者数（累計）	直接受益者 160 名、間接受益者 1146 名（直接受益者の家族）		
受益者カテゴリー	紛争被害女性（寡婦、国内避難民、孤児など）		





石鹸などの生産・販売から、収入源の確保に成功

国連開発計画（UNDP）との協働のもと、分野横断型職業訓練施設を建設しました。そこで、対象者に対して3つの職業訓練（洋裁60名、ジュース作り50名、石鹸作り50名）を行い、そのうえで、石鹸・パイナップルジュースの製品化・ブランディング支援及び販売システムの構築を支援しました。それにより、受益者全員が各職業技術を習得したのち、製品の生産・販売を開始したことで収入源を確保できるようになりました。また、洋裁訓練対象者を除く4グループ（石鹸生産者25名×2グループ、ジュース生産者25名×2グループ）の運営管理体制が整備され、自主的な運営が開始されています。パイナップルジュースに関しては、地元のホテルやレストランにも卸しており、その人気は上々です。



1 分野横断型職業訓練センターでの修了式の様子。 2 洋裁訓練中の様子。
3 生産した石鹸を箱に詰めて収入向上活動を行う受益者たち。

7 ［ウガンダ］元子ども兵社会復帰支援プロジェクトにおける長期的インパクト評価事業

事業の目的	当会の支援により社会復帰した元子ども兵の現状を調査することで、社会復帰プロジェクトの長期的なインパクトを評価・分析すること及び、それにより対象者（地域）の自立と自治を促進するためにより効果的な支援アプローチを模索すること		
事業地域	ウガンダ / 北部地域	受益者数（累計）	調査対象者 75 名（第 1-3 期生）
受益者カテゴリー	当会での社会復帰支援を完了した元子ども兵	事業実施期間	2018 年 4 月～2019 年 3 月





支援の“その後”を調査、収入向上や家族を養えるなど自立した生活状況を確認

当会の支援を受けて2009年に社会復帰した元子ども兵68名の現在の状況を質的・量的に調査し、その結果、平均で世帯収入が地域住民の1.9倍、貯蓄額が卒業時の2.6倍、本人の収入が1.8倍に増加し、自らの子ども以外に他者の子ども（平均1.3人）を養育するなど、暮らしが上向いていることを確認できました。しかし一方で、元少女兵の中には（元）夫との関係性に苦しむなど、様々な課題や困難を抱えていることも把握できました。また、問題や困難などネガティブな要素が無いということだけが、必ずしも良い結果（ウェルビーイング）に繋がっているわけではありません。むしろ、困難を抱えていても、良い結果を示す場合も多く見受けられ、対象者が主体的に家族・コミュニティ内で自らの役割を自発的に果たしていることや、自尊心の程度などが、重要な要因として影響していることがわかりました。この調査により、今後、元子ども兵や脆弱層に対する支援アプローチを再考するうえにおいて、重要な視点を得ることができました。

1 11年前、訓練中に産まれた子が現在小学6年生になる卒業生。衣食住だけでなく教育費を稼ぐために懸命に働いてきたという。
2 紛争が落ち着くと村で洋裁ビジネスと食堂をはじめた元少女兵。7人の子どもを養育し、副村長にも選ばれ村人からの信頼も厚い。

8 ［ ウガンダ ］元子ども兵社会復帰支援プロジェクト

事業の目的	元子ども兵が社会復帰するために必要な能力を身につけ、経済的に自立するとともに地域住民との関係を改善しながらコミュニティで安心して暮らせるようになること		
事業地域	ウガンダ / 北部地域	受益者数(累計)	1,352名 (内、元子ども兵は208名)
受益者カテゴリー	元子ども兵及びその家族、最貧困層住民	事業実施期間	2005年5月～継続中



1



2

3年間の支援によって、経済的自立を実現

2017年4月に受け入れた第9期生の元子ども兵16名が、洋裁や木工大工などの職業訓練をはじめ、基礎教育や平和教育、またカウンセリング等の心理社会支援を受け、1年半の訓練を修了（2018年10月）しました。その後、社会復帰のために必要なビジネスの実地訓練をはじめるため、ミシンや大工道具などの開業用資機材を供与。また、店舗の設置やマイクロクレジット等の支援を行い、全員がビジネスを開始したことで、収入を得られはじめています。さらに、第8期生の元子ども兵15名がビジネスの実地訓練を経て、3年間の支援が完了（2018年6月）。収入額に差があるものの、洋裁や木工大工の仕事を行うことで、経済的に自立することができました。

1 洋裁店で働く8期生、衣服の修繕をしながらお客さんと話している様子。
2 社会復帰支援センターで木工を学ぶ9期生。

9 ［ウガンダ：南スーダン］難民居住区及びホストコミュニティにおける自立支援プロジェクト

事業の目的	難民居住区の南スーダン難民及びホストコミュニティの最貧困層が、職業訓練により必要な能力を身につけ経済的に自立すること		
事業地域	ウガンダ / アジュマニ県 南スーダン難民居住区	受益者数(累計)	南スーダン難民60名 ホストコミュニティ住民48名
受益者カテゴリー	南スーダン難民、 ホストコミュニティ最貧困層住民	事業実施期間	2018年2月～継続中



1



2



3

南スーダン難民居住区内に洋裁店や木工所を開設、収入を得られるように

難民居住区内の訓練施設で洋裁・木工大工の訓練を修了した第1期生が開業するため、必要な資機材の供与と洋裁店、木工所を開設しました。また収入創出のためのビジネス講習や運営アドバイス等により、難民とホストコミュニティの対象者である計38名が収入を得られるようになりました。

また2019年2月から上記の分野に加え、編物・レンガ積み工（こう）を合わせた4分野の訓練を、第2期生68名に対して行うために、訓練施設の建設を行いました。また社会経済的に脆弱な環境に置かれている第2期生が2019年4月からのフルタイムの訓練に専念できるよう、訓練施設での給食提供や、日用品店で生活に必要な石鹸や砂糖などと交換できるクーポンの支給により、生活必需品を入手できるよう環境を整えました。

1 難民居住区内の訓練施設で洋裁を学ぶ1期生。　2 木工大工クラスで制作したテーブルセット。
3 開業した洋裁店で働き始めた1期生。

10 ［ウガンダ：南スーダン］南スーダン難民居住区における PSNs に対するオーダーメイド型人道支援プロジェクト

事業の目的	対象世帯それぞれの状況と特性に応じて必要な物資またはサービスを供与することで、対象者がBHN（人間としての基本的ニーズ）を満たすこと		
事業地域	ウガンダ/アジュマニ県 南スーダン難民居住区	受益者数(累計)	83世帯（434名）
受益者カテゴリー	南スーダン難民	事業実施期間	2017年8月～継続中

生活に必要な物資を提供

難民居住区で病気を患っている方、高齢者、シングルマザー等の、主に「特別なニーズを持つ人々（PSNs）」である計83世帯434名を個別に訪問し、それぞれの世帯の状況に応じたニーズを聞き取りました。その後、水タンク、石鹸、皿、蚊帳、生理用品、サンダル等のニーズに応じた物資を提供し、それにより短期的に対象者の衣（医）・食・住、子どもの初等教育など、人間としての基本的ニーズを満たすための支援を行いました。



11 ［ブルンジ］紛争被害者及び最貧困層住民の能力開発を通したコミュニティーレジリエンス向上プロジェクト　フェーズ2～生産者協同組合の基盤整備支援～

事業の目的	対象地域において、生産者協同組合を設立した紛争被害者及び最貧困層が組合運営の能力を向上し、自律的に収入を確保し、財政基盤を整えること		
事業地域	ブルンジ/ムランビヤ県、 キガンダ郡、カネグワ村	事業実施期間	2018年4月～2019年3月
受益者数(累計)	約600名（内訳：紛争被害者及び最貧困層住民98名及びその同居家族約500名）		
受益者カテゴリー	紛争被害者及び最貧困層住民		

2015年～2018年に実施した事業のフォローアップとして、養蜂・窯業生産者協同組合の組織運営能力の強化、共同貯蓄活動、養蜂・窯業・農作物の一次加工ビジネスの支援を行いました。組合内の内紛等の問題にも直面しましたが、研修で学んだ帳簿付けや内部統制を実践し、組合を運営しています。また、新たに精米機ビジネスや豆や米等を販売する小規模ビジネスもはじめるなど、組合が収入を増やす方法を考え、自立的に収入が得られはじめています。

12 ［ブルンジ］ブルンジ農村部コミュニティにおける社会的弱者（EVIs）世帯の自立と自治支援プロジェクト

事業の目的	社会的弱者が農村コミュニティ内で、周囲とのつながりを強化し、基本的ニーズを満たした生活ができる環境を整えること		
事業地域	ブルンジ/ムランビヤ県、 キガンダ郡	受益者数(累計)	41世帯（約200名）
受益者カテゴリー	社会的弱者（シングルマザー、 ストリートチルドレン、最貧困層住民）	事業実施期間	2018年4月～2021年3月



10ヶ月の訓練を受けた41名、最終試験に全員合格

対象地域において、養蜂・洋裁・ヘアドレッシングの技術訓練を行い、その間の訓練参加に応じた生活支援と状況に応じた個別カウンセリングを行いました。加えて、自治体（郡）をパートナーとし、郡の所有地に施設を建設し、郡の社会的弱者に対する公共サービスが向上するための土台が整備されました。訓練当初は対象者の大半が各技術に対して未経験であったものの、10ヶ月間の技術訓練を通して、収入を得るために必要な技術や知識を習得できました。41名全員が最終試験に合格し、次年度より供与した資機材を使用し、学んだ技術を活かして収入向上活動を実施し、その活動をフォローアップし、自立と自治を促進していきます。





1 修了式で修了証書を受け取った受益者とその家族。
2 洋裁技術訓練の様子。
3 自分たちで収穫した蜂蜜（商品名：ウブジマハニー）を持って喜ぶ受益者。



大槌をツアーで定期的に訪れる大学生と一緒に。大槌刺し子事務所前にて。

＼大槌復興刺し子プロジェクト・活動トピック／

刺し子をしてみたらハマりました。ここに来ることが、日々の楽しみになっています。

2016年度より出展を続けていた展示会でのPR活動などが実を結び、企業との新しい取り組みが増え、生産量が増加したことを受けて、大槌町の広報誌「広報 おおつち」を通じて、刺し子さんの公募を行いました。その結果、14名の新たな仲間が加わりました。

刺し子さんとして、新しく仲間入りした佐々木ひろ子さん。「広報誌の募集を見て応募しました。もともと手芸が好きで刺し子をしてみたらハマりました。一人で夢中になって黙々と作業することが楽しく、家事の合間にしています。他の刺し子さんたちやスタッフの方も、気さくで話しやすいので、この場に来ることが日々の楽しみになっています」と話してくれました。プロジェクトをはじめてから7年が経過し、新しく仲間を迎えることができる喜びを感じています。



大槌復興刺し子プロジェクト

2018 → 2019 Otsuchi Sashiko Project JAPAN

大槌復興刺し子プロジェクトでは、日本に昔から伝わる手仕事の一つである「刺し子」の商品企画・製作・販売を通して、岩手県大槌町で東日本大震災により被災された女性の生活再建と生きがい創出を目指しています。主な活動は、週2回の「刺し子会」の開催と催事等での商品販売です。2018年度はバディーズ(地元の職員)による初めての商品企画も行いました。また、展示会への出展を通して、企業との新しい取り組みも増えました。そのため、本年度は作り手である刺し子さんの公募を行い、14名の仲間が新しく加わり、現在49名が刺し子さんとして活動しています。2018年度の売上は、約1,450万円。刺し子さんには工賃として、約280万円をお支払いすることができました。



［ 日本 岩手事務所 ］
理事・大槌復興刺し子プロジェクト
マネージャー
吉田 真衣

課題と展望

オーナーシップの醸成が促進、事業評価の注力へ

大槌復興刺し子プロジェクトは、事業開始から今年で7年が経ちました。その間、プロジェクト当事者によるオーナーシップの醸成を一つの目標にしてきましたが、プロジェクト・マネージャーの常駐を廃止したことで、また一歩前進したように感じます。マネージャーが行なっていた一部業務をバディーズ(地元のパート職員)に引き継ぎ、今では刺し子会の運営や生産管理、会計作業に加えて、商品企画や仕入れ業務も彼女らが担っています。刺し子さんはバディーズによる生産スケジュールに応じて、それぞれに役割を発揮し、生産も順調に進んでいます。あと2年でプロジェクト開始から10年という節目を迎えるにあたり、本プロジェクトが社会的にどのようなインパクトを残すことができたのかを評価することが今後の課題です。2019年度はその一歩を踏み出す一年にしたいと思います。

1 大槌復興刺し子プロジェクト

事業の目的	東日本大震災により、甚大な被害を受けた岩手県大槌町にて、東北の伝統技術である「刺し子」商品の制作、販売を通じて、継続的な地元人材雇用や、作り手の女性たちの収入・生き甲斐の創出を目的とする。また、商品製作にあたり、技術講習会などを行い、受益者の相互交流を活性化させ、心理的社会負担の軽減を図る 本事業による継続的な手仕事の提供、地元人材の雇用創出、事業を通した地域活性化への貢献のため、東日本大震災から10年後の2021年までに、NPO法人テラ・ルネッサンスから、独立採算による別法人化を果たし、地元職員と地元住民による運営を目指す		
事業地域	日本 / 岩手県	受益者数(累計)	205名
受益者カテゴリー	東日本大震災の被災地域の女性	事業実施期間	2011年6月～継続中



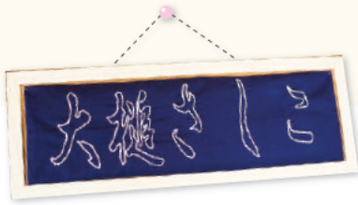




1 清原株式会社様と共同開発したキットコレクション。2 3 オンワード樫山様とコラボレーションしたTシャツ。

企業とのコラボレーションから刺し子市場の拡大へ

今年度は、企業との新しいコラボレーション・プロジェクトもはじまりました。1社目は清原株式会社様。大槌刺し子がデザイン監修した刺し子のバッグを自分で作ることができるキットコレクション※の開発を共同で行い、カタログ通販を通して、全国販売されました。もう1社は、株式会社オンワード樫山様の紳士服ブランドとのコラボレーション・プロジェクトです。チェック柄を「刺し子」で表現した生地をポケットや切り替えにあしらったTシャツや、「刺し子」を襟元にあしらったポロシャツ、ハットにクラッチバッグなどを製作。全国の百貨店のブランド店舗で販売されました。それぞれ、これまでの大槌復興刺し子プロジェクトへの共感が新しい取り組みに発展しました。(※このコレクションの販売は終了しています。また、販売価格は異なる可能性があります。)







バディーズによる新商品 - Sack Life with Sashiko Bag -

今年度は、毎年秋に発売している新商品の開発を初めてバディーズが行いました。刺し子の本来の目的(機能)とデザインを商品に取り込みたいとの想いから開発した多目的バッグ。布と布を接ぎ(はぎ)あわせ、一つのものを作るという昔の人の知恵が生きるあずま袋に、マチや内ポケットを付けることで使いやすくしました。底面には、刺し子さんの手でひと針ひと針、刺し子を施すことで、機能性とデザイン性を兼ね備えたバッグに仕上がりました。

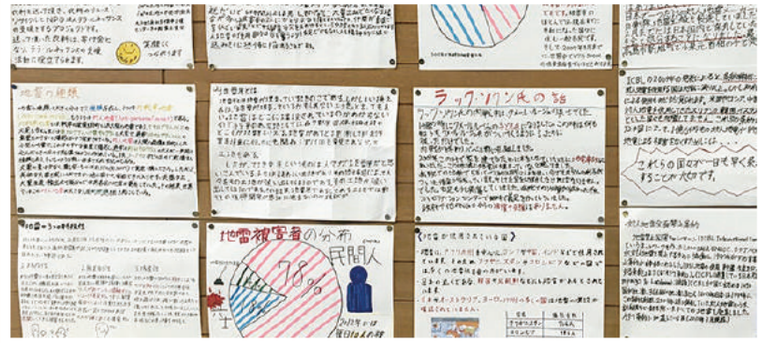
「今回は初めて、デザインやパターンも自分たちで作りました。古くから伝わるあずま袋をベースに、たくさんの人に使っていただけるよう、刺し子部分には刺し子糸だけでなく、ラメ入りの刺繍糸を使うなど、カジュアルな要素を取り入れました。これからも刺し子の意味合いや機能性はもちろん、丈夫で長く愛用できる、使いやすい、心惹かれる、そんなものづくりを目指したいです。」(バディー・黒澤かおり)

商品のご購入はこちら ▶▶▶ 大槌刺し子 検索 https://sashiko.jp/



11月18日に開催された京都ヒューマンフェスタへの出展時の様子。
（主催：京都人権啓発推進会議、京都人権啓発活動ネットワーク協議会、京都府）
ゲストの戦場カメラマンの渡部陽一さんがブースへ来てくださり、アフリカの話で盛り上がりました。

亀岡市立亀岡中学校との協働から10年を経て



亀岡市立亀岡中学校さんは国際交流委員を中心として、約10年ものあいだ、継続して支援をしてくだり、これまでの支援総額は196,996円となりました。毎年開催している「亀中フェスティバル」のイベントでは、地雷についてのパネル展示や、自分たちで調べまとめた地雷やカンボジアについての資料を掲示しています。（写真上）さらに、校内で呼びかけ集めた古本を会場で販売し、その収益と当日会場で集まった募金を寄付してくださっています。中心となった生徒さんは、「地域の方や保護者に、『これからもがんばってね』と言われることが嬉しいです。友達に声をかけたら、漫画を全巻持って来てくれたこともあります。」と語ってくれました。校内だけでなく、地域にも浸透した取り組みとなっています。

啓発事業

2018 → 2019 AWARENESS RAISING PROJECT JAPAN

海外事業地での国際協力、政策提言とともにテラ・ルネッサンスの活動の柱になっている「啓発」。アウェアネスレイジングチームが中心となり、ひとりでも多くの方にテラ・ルネッサンスが取り組む課題、そしてその課題解決に向けた取り組みを知っていただくために、全国各地で講演活動やイベントへの出展を積極的に行っています。さらに、めぐるプロジェクトとして書き損じはがき、携帯電話、キフ★ブック、フクサポ、コシサポ、アルサポの支援協力を呼び掛けや、書籍、ウガンダコーヒーの販売を行うことで、誰でもできる具体的な参画の仕組みを設け、年齢に関係なく個人でも法人でも、それぞれの立場でできる身近な国際協力を提案しています。



［ 日本 京都事務局 ］
アウェアネスレイジングチーム
マネージャー
栗田 佳典

課題と展望

啓発事業の挑戦と振り返り、そして発展へ。

2018年度はウガンダコーヒーの販売を促進するため、京都市内で開催されているマルシェに出展。コーヒー販売をきっかけに、団体や活動を知っていただく機会となりました。さらには、東本願寺しんらん交流館でのパネル展示や、京都府主催イベントへの参画など、活動の幅を広げ、啓発に取り組んでいます。また、ソーシャルインパクト（社会的影響）の調査のため、教育機関で講演前後のアンケートを実施。人数や回数だけではない、講演の評価ができるようになりました。

今後は、これらの取り組みを維持・発展させていくとともに、どのような成果を生み出したかを振り返り、日々改善に努めていきたいです。そのような取り組みを通して、幅広い世代の方々とともに活動ができる仕組みを強化していきたいと思います。

啓発事業のプロジェクト概要と成果

（1）めぐるプロジェクト
2018年度協力者数：10,988名・団体

古着、古本、書き損じはがき、不要になった携帯電話、古紙、アルミホイールの回収の呼びかけを行いました。書き損じはがきと古本の回収を強化するめぐるキャンペーン2018では、356,983円分の書き損じはがきと418,431円分の古本を集め、活動資金を調達することができました。同キャンペーンにおいては、学校で講演した際に、生徒が校内に呼びかけて書き損じはがきを集めるなどの機会が増えたことに加え、昨年度に引き続き、協力をしてくださる継続支援の学校が増えたことによる効果も確認することができました。



京都市立藤森中学校の皆さんが、継続して「書き損じはがき」を集めてくださいました。



（2）スタディツアー　参加者数：12名

ウガンダのスタディツアーを実施しました。また、大阪府立佐野高校、大阪府立住吉高校のカンボジアスタディツアーをコーディネートし、高校生の現地訪問の機会を調整することもできました。

（3）物品販売　売上：3,109,021円

ウガンダコーヒーや、テラ・ルネッサンスの著書を、イベントやインターネットを通して販売しました。商品カタログも作成し、これまでのオーガニックコットンタオルなどの商品もまとめて購入できる仕組みを整えました。

表彰・受賞

- 企業価値認定 認定（一般社団法人企業価値協会）
- 第6回 エクセレントNPO大賞 組織力賞 ノミネート（「エクセレントNPO」をめざそう市民会議）

＼イベント・活動トピック／

世界各国のスタッフが来日、特別ゲストも出演！ 440名が参加したイベント『世界会議2018』を開催

2018年6月、日本全国6都市（愛知・東京・秋田・京都・広島・佐賀）において、『世界会議2018 This is Terra Renaissance.』を開催しました。今回のイベントは、普段からご支援いただく皆さまを無料でご招待し、日頃のご支援の感謝をお伝えするとともに、これからも継続して活動にご参加いただきたいという想いで開催しました。

また、イベント当日は、世界各国で活動しているスタッフを日本へ招聘し、現場の声を直接お伝えしました。さらに、特別ゲストとして、パタゴニア日本支社長の辻井隆行さま（京都会場）、演出家の平田大一さま（東京会場）、元エー・ピーカンパニー副社長の大久保伸隆さま（愛知会場）に出演いただき、ご参加いただいた皆さまに対して、様々な視点でテラ・ルネッサンスの支援や活動の価値を考えていただける機会となりました。結果、イベントの総参加人数は6都市あわせて440名となり、多くの方からご好評いただけたイベントとなりました。







1 テラ・ルネッサンスのスタッフをはじめ、京都会場にご参加いただいた皆さまとの記念撮影。
2 元子ども兵の社会復帰支援について、自身の想いを伝えるウガンダ事務所長のジミー。
3 創設者の鬼丸が語る、団体が設立された『京都』という土地に寄せる特別な想い。

講演実績

※順不同

企業・団体	コモンズ投信株式会社 / 薬樹株式会社 / 株式会社マハロネットワーク / 株式会社隆祥館書店 / 株式会社玉越 株式会社トヨコン / 株式会社本物研究所 / 大塚実業株式会社 / 株式会社時事通信社 株式会社アントレプレナーセンター / 株式会社西井製作所 / 損害保険代理業協会北九州東支部 / 京都武田病院 JICA関西 / 近畿労働金庫 / 近畿労金USR委員会 / 京都生活共同組合 / 大阪高等学校保健体育科研究会 会津若松市倫理法人会 / 愛知県豊橋市南倫理法人会 / 愛知県倫理法人会豊田地区 / 男鹿市倫理法人会 瀬戸・旭倫理法人会 / 千葉市倫理法人会 / 豊中千里ロータリークラブ / 京都南ローターアクトクラブ 京都伏見ローターアクトクラブ / 千葉ロータリークラブ / 豊橋ロータリークラブ / 広島中央ロータリークラブ 越谷東ロータリークラブ / 京都紫明ライオンズクラブ / テラ・ルネッサンス後援会秋田 / フェアプラス 関西国際保健勉強会ぽちぽちの会 / Global Engagement Initiative / 認定NPO法人侍学園スクオーラ・今人 地雷ゼロ宮崎 / みえ市民活動ボランティアセンター / 世界子どもサミット実行委員会 フェアトレードデー垂井 / 新潟から世界平和をひろげる会 / 大阪いずみ市民生協 / NPO法人関西NGO協議会 マイコミュニティフォーラム in つる実行委員会 / momonohana / 信州伊那地域経営研究会 公益資本主義推進協議会東京支部 / 立正佼成会関東教区 / 立正佼成会東京教区 / 立正佼成会南多摩教会 立正佼成会佐渡教会 / 新宗連京都府協議会青年部 / ドリームケーキプロジェクト 一般社団法人地域経営推進センター / 京都府ガールスカウト連盟 / 公益財団法人五井平和財団 一般財団法人富士通JAIMS / 岡山平和センター女性会議 / 一般社団法人くまもとターボ / 経営実践研究会 京都私学フェスティバル / 輝いた広島創造会議 / Action 実行委員会（ひろしま国際センター） / UNISC関西
教育機関	京都市立山ノ内小学校 / 大阪府泉南市立鳴滝小学校 / 和光鶴川小学校 / 隅田区立錦糸小学校 羽曳野市立西浦小学校 羽曳野市立峰塚中学校 / 茨木市立東中学校 / 八尾市立南高安中学校 / 橋本市立橋本中学校 吉野町立吉野中学校 / 亀岡市立亀岡中学校 / 亀岡市立南桑中学校 / 枚方市立渚西中学校 枚方市立中宮中学校 / 枚方市立さだ中学校 / 枚方市長尾西中学校 / 門真市立門真はすはな中学校 徳島市城西中学校 / 和光学園和光中学校 / 京田辺市立大住中学校 / 池田市立北豊島中学校 箕面市立第二中学校 / 橿原市立畝傍中学校 / 豊中市立第二中学校 / 品川区立戸越台中学校 泉大津市立小津中学校 / 吹田市立豊津中学校 / 姫路市立香寺中学校 / 江戸川区立二之江中学校 神奈川学園中学校 / 宇治市立西小倉中学校 / 京都市立朱雀中学校 / 京都市立向島東中学校 京都市立大宅中学校 / 男鹿市立男鹿東中学校 / 男鹿市立男鹿南中学校 秋田市立御所野学院高校 / 大阪府立佐野高校 / 近江兄弟社高校 / 神戸龍谷高校 / 大阪府立住吉高校 神奈川県立横浜国際高校 / 福島県立白河旭高等学校 / 大阪府立箕面東高校 / 東峰村立東峰学園 三重県立石薬師高校 / 京都府立京都すばる高校 / 京都府立北桑田高校 / 京都府立桃山高校 京都府立西舞鶴高校 / 京都府立福知山高校 / 京都外大西高校 / 立命館宇治高校 / 大谷高校 和歌山県立橋本高校 / 埼玉県立所沢西高校 / 大阪府立日根野高校 / 三重県立四日市高等学校 宮崎学園高校 / 滝学園滝高校 / 京都府立高等技術専門校 芳澄女学院情報国際専門学校 / 龍谷大学 / 立命館大学 / 神戸大学 / 甲南女子大学 / 創価大学 / 横浜市立大学 京都女子大学 / 京都外国語大学 / 同志社大学 / 上智大学 / 京都教育大学 / 近畿大学 / 常磐会学園大学 関西外国語大学 / 千里金蘭大学 / 青山学院大学 / 東京大学 / 三重大学 / 上智大学 / 京都大学公共政策大学院 兵庫大学 / 横浜市立大学 / 神戸市外国語大学
行　政	人事院公務員研修所 / 熊本県庁 / 沖縄県自治研修所 / 笠間市役所 / 熊本市役所 / 山武市役所 / 与謝野町 亀岡市教育委員会 / 酒々井町教育委員会 / 尼崎市教育委員会

メディア掲載実績（重複を除く）

秋田新聞 / 秋田魁新報 / 神戸新聞 / 京都新聞 / 東愛知新聞 / 陸奥新報 / 岩手日日 / 毎日新聞 / 高知新聞 / 東京新聞 / 中日新聞
朝日新聞 / 通販生活 / LEE / 致知 / NHK / NHKBS-1 / フジテレビジョン / 朝日放送テレビ



＼ アドボカシー・活動トピック ／

武器貿易条約（ATT）第４回締約国会議への参加

テラ・ルネッサンスは、政策提言活動の一つとして、「武器貿易条約（ATT）」に取り組んでいます。2018年は議長国の日本で、第４回締約国会議が開催されました。弊会からは職員の吉田とインターンの岡本、アドバイザーの榎本を派遣して、ATTの実施状況や課題についてSNS等で発信を行いました。また、貿易管理やATTに関する知識や経験が豊富なアジア・アフリカのNGOや研究者のATT締約国会議プロセスへの参加を求める活動を外務省通常兵器室や議員に向けて行いました。

各種主催イベントへの出展

2018.04.21	アースディ京都
2018.05.05	地球愛祭り
2018.06.07	京都産業大学ボランティア説明会
2018.06.20 - 07.08	東本願寺しんらん交流館パネル展示（写真：上）
2018.06.30	第12回「頑張らない」バドミントンチャリティー大会
2018.07.13	社会を動かす小さな一歩の始め方
2018.08.04	国際協力トーキングカフェ
2018.09.15	KBSラジオ 秋のOne Day Special
2018.09.29	グローバルフェスタ
2018.11.18	きょうとヒューマンフェスタ
2018.11.23	あすのKyoto・地域創生フェスタ
2018.11.25	清水寺で世界を語る（写真：下）
2018.12.08	ふしみん祭り 国際協力トーキングカフェ第２弾
2018.12.24	ワンワールドフェスティバル for youth ユース
2019.02.02 - 02.03	ワンワールドフェスティバル
2018.04.28, 05.19, 06.23, 09.22, 10.27, 11.24, 12.22, 2018.02.23, 03.23,	岡崎マルシェ



協力：真宗大谷派（東本願寺）しんらん交流館



佐賀県内で広がりをみせる平和教育・啓発活動、ふるさと納税（寄附）の活用も好調に







1 城南中学校の生徒の皆さまと佐賀事務所スタッフ・島。2 ファンドレイジングセミナーにて想いを語る理事・鬼丸。3 テラ・カフェ in 佐賀にて、アフリカの現状について語る佐賀事務所スタッフ・島。

佐賀県内における平和教育・啓発活動を推進

佐賀県庁教育振興課の「グローバル人材育成のための講師派遣事業」の一環として、佐賀市立城南中学校にて講演を実施しました。生徒の皆さんは、子ども兵という課題や困難に立ち向かう人々についての話に、熱心に耳を傾けてくれました。後日、生徒の皆さんが校内に呼びかけ、めぐるプロジェクトの一環として、書き損じはがきを584枚（ウガンダの元子ども兵の自立支援に必要な給食270食分相当）も集めてくださったことに、とても感動しました。佐賀の地でも「一人ひとりの力は微力ではあるが、無力ではない」が実践され、平和の輪の広がりを実感しています。

ノウハウ共有から、CSO（NPO）の活性化に貢献

佐賀県内の3ヶ所（佐賀市、鳥栖市、小城市）にて、県内CSO（NPO）向けにファンドレイジングセミナーを開催しました。累計31名の方にご参加いただき、当会が持つ資金調達のノウハウをCSOの皆さまにお伝えし、市民活動の活性化への貢献を目指しました。毎月開催のテラ・カフェ in 佐賀では、佐賀事務所スタッフだけでなく、京都事務局スタッフやインターンによる登壇によって、様々な角度から当会について触れていただくことができました。佐賀県内における国際協力イベントのひとつとして、順調にその基盤をつくることができました。





＼ ふるさと納税（寄附）の活用・活動トピック ／

ふるさと納税（寄附）で、コンゴにおける支援を実施

2018年度にふるさと納税でいただいたご寄附の一部は、コンゴ民主共和国の『子どもの徴兵予防プロジェクト』(P.20参照)に活用させていただきました。このプロジェクトは、2017年11月より開始した『ふるさと納税（寄附）』という、新しい支援の窓口を拡充できたことによって立ち上げられました。ふるさと納税を通して、コンゴの現状や平和の大切さについて考えていただく機会をつくることができたのも、大きな意義だと感じています。また、2018年度中には同じくコンゴで性暴力の被害にあった女性の自立支援をはじめ、佐賀県内で重視している啓発活動として、本プロジェクトに関する報告などの講演会等をより活発に実施していく予定です。

1 夫を紛争で亡くし、子どもたちの学費を貯めるために家畜飼育をはじめた、シングルマザーの女性。
2 家畜としてヤギなどを飼育し、家庭の生計向上によって子どもの徴兵を予防する。

＼ ふるさと納税（寄附）・利用者の声 ／

＼ HAPPY ／



（支援者）
伊藤奈美子さん
（選ばれた返礼品）
佐賀牛

“幸せ”“想い”が、形となって循環することを実感。一部が寄付金に、一部が同じ想いの佐賀牛業者「弥川畜産」さんへ、そして一部が、私たち家族のもとへおいしいお肉となって…。

これまで返礼品をいただいて、ただ節税する制度にあまり前向きでなかった私。そうかといって、すべてを寄付するほど善人でもなく…。ご縁をいただきテラルネさんでふるさと納税をしてみたら、自分起点で四方八方へ幸せを循環させることが出来る素晴らしいものでした。このご縁を大切に。毎年続けていきたいです。



ふるさと納税（寄附）のお申込み・お問い合わせ

・ウェブ｜https://www.terra-r.jp/furusato_tax.html
・電　話｜075-741-8786（受付時間：月 - 金 , 10:30 - 18:00）

ご支援くださった企業・団体の皆さま

株式会社アイケイ

株式会社王宮

公益財団法人京都地域創造基金
（事業指定助成プログラム）

株式会社 Kurokawa
（フクサポ）

国連開発計画（UNDP）
コンゴ民主共和国事務所

佐賀県
（ふるさと納税）

宗教法人真如苑

株式会社玉越

公益財団法人日本国際協力財団

株式会社バリューブックス
（キフ★ブック）

株式会社ピープルフォーカス・
コンサルティング

株式会社フェリシモ

リタワークス株式会社

三井物産株式会社

株式会社 RICCI EVERYDAY

株式会社アイ企画 / 株式会社アイラ / 株式会社アウラ / アサヒワンピールクラブ / 有限会社アップライジング / 有限会社イソ・コーポレーション / 株式会社VIAJERO / 株式会社ウチヤマホールディングス / 一般財団法人 H2Oサンタ / エグチホールディングス株式会社 / 税理士江黒清史事務所 / 株式会社エスグランド / 株式会社FISソリューションズ / 大塚実業株式会社 / 社会福祉法人合掌苑 / 加藤貿易株式会社 / 頑張らないチャリティバドミントン大会実行委員会 / 株式会社キャディッシュ / 近畿労働金庫 / 株式会社GLOBAL FLAT / 株式会社ゲットイット / 株式会社ケンモク / 興亜商事株式会社 / 株式会社コスモライン / 特定非営利活動法人コンフロントワールド / 一般社団法人サービスデザイン推進協議会 / 三和パッキング工業株式会社 / しなやか整体院 / 地雷ゼロ宮崎 / 株式会社新経営サービス / 株式会社シンワルプテック / 菅原汽船株式会社 / 特定非営利活動法人青少年ワールドサポート21 / セリュール株式会社 / Dialogue For Peace / 株式会社銚子大洋自動車教習所 / TSC東海 / テラ・ルネッサンス後援会千葉 / テレコムクレジット / 有限会社東伸 / 医療法人幸正会 Dr.久高のマンマ家クリニック / 有限会社徳久 セブンイレブン佐野工業団地店 / 株式会社南海 / 株式会社ノア動物病院 / ひなぎく株式会社 / 株式会社一二三工業所 / 株式会社穂高住販 / 株式会社マジックランプ / 水戸ヤクルト販売株式会社 / 医療法人むすびの森あきた病院 / 名備運輸株式会社 / 一般社団法人ユニゾグラフ藝術研究所 / 株式会社ユニバースプロダクツ / 株式会社ライフウィズ / 立正佼成会 南多摩教会 / 株式会社リブート / 弁護士法人ロウタス法律事務所

※五十音順・敬称略　2018年度中に一定以上のご支援をいただいた法人・団体の皆さまを掲載しております。

テラ・ルネッサンス 団体概要

（2019年3月末日）

正式名称	特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス	理事長	小川真吾
設立年	2001年（ 2005年 法人格取得、2014年認定NPO法人となる ）		
活動対象国	カンボジア王国 / ラオス人民民主共和国 / ウガンダ共和国 / コンゴ民主共和国 / ブルンジ共和国 / 日本		
海外・国内事務所	本部事務局（ 日本 京都府 ） 佐賀事務所（日本 佐賀県 ） 大槌事務所（ 日本 岩手県 ） カンボジア事務所（ カンボジア王国バッタンバン州 ） - フィールド事務所（バッタンバン州カムリエン郡） ウガンダ事務所（ ウガンダ共和国グル県 ） - フィールド事務所（アジュマニ県パギリニア難民居住区） コンゴ事務所（ コンゴ民主共和国南キブ州 ） - フィールド事務所（南キブ州プカブ市カロンゲ、カサイ中央州カナンガ市） ブルンジ事務所（ ブルンジ共和国ブジュンブラ市 ） - フィールド事務所（ムランビヤ県キガンダ郡カネグワ村、ムランビヤ県キガンダ郡レンガ村）		
海外における主な協力団体	●カンボジア　Mines Advisory Group(MAG) The Department of Agriculture, Forestry, and Fisheries in Battambang Province Community Rural Development and Natural Agriculture for Supporting Environment(CRDNASE) ●ラオス　MAG-Lao / UXO-Lao The Agricultural and Forestry Office of Pek District, Xieng Khouang Province ●ウガンダ　[redacted]World Vision Ugada Refugee Law Project / The Center for Victims of Torture Gulu NGO Forum ●ブルンジ　Kiganda Commune Office, Muramvya Province		

理事	小川真吾 / 鬼丸昌也 / 中井隆栄 / 岡田則子 / 新居真衣 / 渡邉真規 / 江角泰
監事	鯉田勝紀（ 公認会計士・税理士 / 鯉田会計事務所 ）
スタッフ	●本部事務局（京都）　有給専従職員　6名　有給非専従職員 1名　インターン 7名 ●大槌事務所（岩手）　有給専従職員　1名　有給非専従職員 3名 ●佐賀事務所（佐賀）　有給専従職員　1名 ●カンボジア事務所　日本人有給職員 1名　ローカルスタッフ 11名 ●ラオス事務所　日本人有給職員 1名　ローカルスタッフ 2名 ●ウガンダ事務所　日本人有給職員 1名　ローカルスタッフ 30名 ●コンゴ事務所　日本人有給職員 0名　ローカルスタッフ 19名 ●ブルンジ事務所　日本人有給職員 2名　ローカルスタッフ 9名
会員数	ファンクラブ会員 1,574名 / 正会員 69名 / 個人賛助会員 146名 / ジュニア賛助会員 6名 / 団体賛助会員 33団体 法人サポーター 128団体 【 定款上の会員合計 1,956名・団体 】
加盟団体	(特活)関西NGO協議会 / (特活)国際協力NGOセンター / 日本小型武器行動ネットワーク (特活)地雷廃絶日本キャンペーン / 児童労働ネットワーク / SDGs市民社会ネットワーク 市民ネットワーク for TICAD / 新公益連盟 / 京都経営品質協議会 / 関西SDGsプラットフォーム 佐賀NGOネットワーク / The International Action Network on Small Arms(IANSA) Gulu NGO Forum

2018年度版・年次報告書へ

ご協賛いただいた団体・法人の皆さま

Daisanbunmei
第三文明

NEWLINE は テラ・ルネッサンス を応援しています。


が
あなたに変わって
をします!
250業種600社の安心実績
30マンガを100枚配って社の問い合わせを頂いた驚異の反響率
～あなたの商品をたった「2分」でわかりやすく、売れやすくします～
株式会社 NEWLINE
info@new-line.biz マンガ営業

NOAH Veterinary Clinic
ノア動物病院®
NOAH Veterinary Clinic
城東センター病院 甲府市城東3-4-15 〒400-0861 TEL 055-233-4126
数島病院 甲斐市下条[illegible] 〒400-0124 TEL 055-277-1399
八王子病院 八王子市七国2-33-8 〒192-0919 TEL 042-632-6622
Hako bu neco（猫専門病院） 甲府市城東1-13-17 〒400-0861 TEL 055-233-4128
Hako bu neco（猫カフェ） 中巨摩郡昭和町西条5241 〒409-3866 TEL 055-288-1803
八王子市兵衛1-3-1 〒192-0918 TEL 042-638-8822
E-mail：hakobuneco.vet@noah-vet.co.jp HP：http://www.noah-vet.co.jp



丸武建設株式会社
〒981-3111 宮城県仙台市泉区松森字新田19－3
TEL022－373－8221(代) FAX022－373－8438

伊那食品工業株式会社
かんてんぱぱ®
いい会社をつくりましょう
～たくましく そして やさしく～

はたらくあなたへ 笑顔 を届けに
近畿ろうきん
近畿ろうきんFacebookページ
https://www.facebook.com/kinkirokin/
人をむすぶ、こころをつなぐ
社会貢献預金 笑顔プラス
あなたの預金で、
つながる支援
社会に笑顔を増やす
定期預金です。

ワクワク楽しい
ヨリタ歯科クリニック

保険プラスONE
Risk Management & Life Service

私たちの思いは、
ウガンダの思いでもある。
消費者とそこで暮らす
人々に明るい未来を。
CRYSTAL COFFEE
UGANDA BUGISHU ELGON COFFEE
http://www.crystalcoffee.jp/







GOOD PLACE
いきいきと働ける場のつくり方

人々にとって多くの時間を過ごす"働く場"の環境を変え、
いきいきとした企業を増やしていきます。

ueda-h.co.jp/goodplace/

@uedahcojp
jimukinoueda

株式会社ウエダ本社 働く環境の総合商社
〒600-8103 京都市下京区五条堺町角塩釜町 363
TEL. 075-341-4111
FAX. 075-341-5738

子どもたちに「未来」を托す

農業事業部 ジェイ農園



農薬・化学肥料・除草剤を使用せず、できる限り自然に沿った方法で、「安全」「安心」「新鮮」「健康」な作物の栽培に挑戦しています。

教育事業部 j教育セミナー





1993年夏、文教の地・姫路で「公立トップ高校トップ合格」を目標に創業。「生徒に一生懸命」をモットーに、兵庫県下でも有数の難関大学進学率を誇る姫路西高・姫路東高の合格者数21年連続学区No.1、姫路市内の生徒数No.1となっています。

新規事業部 修学荘



教育事業部・農業事業部と連携し、「実感」を重視した教育を提供することをめざして、鳥取県大山山麓に合宿所を開設し、体験学習の拠点として運営しています。

株式会社 ジェイ教育システムズ 兵庫県姫路市東延末1-1 姫路NKビル6F TEL 079-288-6070 MAIL systems@js-educe.co.jp WEB https://www.js-educe.co.jp/



〒736-0055 広島県安芸郡海田町南明神町1番17号
TEL：(082)821-0241 FAX：(082)821-2494
Mail：nishii@hiroshima-nishii.co.jp
URL：http //www.hiroshima-nishii.co.jp

《営業品目》
自動車ナンバープレート各種標識、電気部品、棺金具、各種塗装品
航空機部品・半導体部品・半導体関連機器・精密治具金型
各種自動機設計・開発・検査

Terra Renaissance × qpica Creating Fun Together

「テラ·ルネッサンス」と「オビカ」の
新しい支援のカタチ。

株式会社 オビカ
www.oka-p.co.jp

様々な方法で、テラ・ルネッサンスの活動にご参加ください。

寄付で応援 ····· 当会へのご寄付は、寄付金控除などの税制上の優遇措置の対象です。

継続して寄付

個人の方	ファンクラブ会員（月々1,000円から） 利用方法：クレジットカード、口座振替
法人の方	法人サポーター（月々5,000円から） 利用方法：口座振替



個人の方、団体・法人の方、それぞれ継続的にご支援いただける会員制度をご用意しています。特典としては、年次報告書や、ニュースレター、海外からのポストカードなどをお届けしています。お申し込みはホームページ、またはお電話でも受付中。また、すでに会員の方は、金額の変更も可能です。お気軽にお問い合わせください。

今回のみ寄付

● 一般寄付	● ふるさと納税（寄附）
利用方法：クレジットカード、郵便・銀行振込	利用方法：クレジットカード、郵便振込用紙※

寄付金の控除額には一定の限度額があります。詳細は、最寄りの税務署にお問い合わせいただくほか、ふるさと納税の場合は、総務省の「ふるさと納税ポータルサイト」をご覧ください。総務省の通知（平成31年総務省告示第179号第2条第1号ニ）により、佐賀県民の皆様からのご寄附につきましては、返礼品をお選びいただけないことになっております。ご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。また、法人としてふるさと納税のご寄附をされた場合に返礼品をお受け取りされると、受贈益として計上されますので、ご注意ください。（※ふるさと納税の郵便振込用紙をご希望の際は、テラ・ルネッサンス事務局までお問い合わせください。）

古着や古本、不要になったモノの回収で応援

フクサポ
対象：コート、シャツ、ズボンなど

キフ★ブック
対象：ISBNのある本、CD・DVDなど

着なくなったシャツやズボン、読まなくなった本やCD・DVDなどを回収して支援ができる『めぐるプロジェクト』。身近な国際協力として、幅広くご好評いただいています。その他にも書き損じハガキなど、不用品の回収支援は、様々な種類をご用意しています。詳しくは、テラ・ルネッサンスのホームページをご覧ください。

ご支援のお申込み・お問合わせは、テラ・ルネッサンス事務局まで

電話 075-741-8786（月-金 10:30-18:00）
FAX 075-741-7965
メール contact@terra-r.jp
Web テラルネッサンス 検索

2018年度決算ならびに2019年度予算

（単位：円）

Ⅰ 経常収益の部			2018年度 予算	2018年度 決算	2019年度 予算
1. 会費収入			46,000,000	40,760,000	64,109,000
2. 寄付収入			82,000,000	66,954,162	76,700,000
3. 事業収入			26,700,000	32,256,378	25,720,000
4. 助成金等収入			118,500,000	78,808,665	91,133,600
5. その他収入			11,750,000	2,431,055	0
経常収益合計			284,950,000	221,210,260	257,662,600
Ⅱ 経常費用の部					
1. 事業部門	海外事業	カンボジア事業	35,929,696	32,884,794	24,790,562
		ラオス事業	15,069,721	12,072,894	8,038,212
		ウガンダ事業	47,709,464	49,027,475	47,435,598
		コンゴ事業	65,323,015	51,913,681	27,108,702
		ブルンジ事業	23,834,162	23,227,581	37,687,832
	国内事業	東日本大震災復興支援事業	20,900,986	21,269,385	20,253,803
		啓発事業	15,051,764	15,849,009	62,587,754
		広報・資金調達事業 ※	42,657,154	37,129,657	0
		アドボカシー（政策提言）	1,183,619	1,699,255	3,290,256
2. 管理部門			24,118,968	7,672,821	19,285,525
経常費用合計			291,778,549	252,746,552	250,478,244
当期経常増減額			▲ 6,828,549	▲ 31,536,292	7,184,356

※広報・資金調達事業は、2019年度より啓発事業に統合されました。

国際協力事業費明細

（単位：円）

カンボジア事業	現地管理費	2,018,704
	地雷撤去支援プロジェクト	871,739
	地雷埋設地域村落開発支援プロジェクト	8,808,613
	地雷埋設地域の脆弱な障害者家族への生計向上支援プロジェクト	21,185,738
	合　　計	32,884,794
ラオス事業	不発弾撤去支援プロジェクト	140,397
	産学民連携による持続可能な森林保全のための自然共生型産業の普及活動 ラオス不発弾汚染地域における養蜂の技術向上と普及を目指した“farm miel”プロジェクト"	11,932,497
	合　　計	12,072,894
ウガンダ事業	元子ども兵社会復帰支援プロジェクト	11,651,515
	農業・畜産支援による貧困削減事業に係る後方支援事業	6,668,415
	南スーダン難民居住区におけるPSNsに対するオーダーメイド型人道支援プロジェクト	2,290,245
	南スーダン難民居住区及びホストコミュニティにおける自立支援プロジェクト	26,042,638
	元子ども兵社会復帰支援プロジェクトにおける長期的インパクト評価事業	2,374,662
	合　　計	49,027,475
コンゴ事業	南キブ州における元子ども兵及び紛争被害者エンパワーメントプロジェクト	6,395,265
	南キブ州における元子ども兵および孤児への教育支援プロジェクト	2,408,994
	南キブ州における子どもの徴兵予防プロジェクト	4,207,178
	南キブ州における紛争被害女性の生計向上支援フォローアッププロジェクト	2,014,761
	中央カサイ州（ビクク地区）における紛争被害女性のエンパワーメントプロジェクト	18,029,209
	中央カサイ州（20Mai地区）における分野横断型職業訓練センター建設及び紛争被害女性のエンパワーメントプロジェクト	18,292,507
	中央カサイ州における紛争の影響を受けた最脆弱層女性に対するレジリエンス向上プロジェクト	565,767
	合　　計	51,913,681
ブルンジ事業	ブルンジ農村部コミュニティにおける社会的弱者（EVIs）世帯の自立と自治支援プロジェクト	19,577,402
	ブルンジにおける紛争被害者及び最貧困層住民の能力開発を通した コミュニュティーレジリエンス向上プロジェクト フェーズ2 ～生産者協同組合の基盤整備支援～	3,650,179
	合　　計	23,227,581

助成金内訳

（単位：円）

助成機関　※順不同	受取助成金	前受助成金
1. 公益財団法人 生協総合研究所アジア生協協力基金	999,000	0
2. 公益財団法人 日本国際協力財団	15,000,000	0
3. 公益財団法人 日本国際協力財団	5,230,257	846,853
4. 京都地域創造基金	750,447	0
5. 独立行政法人 国際協力機構 草の根技術協力事業	16,772,528	5,288,472
6. 三井物産株式会社 三井物産環境基金	2,102,101	1,397,899
7. 国連開発計画	30,636,897	641,338
8. 外務省 日本NGO連携無償資金協力	6,667,435	24,401,873
9. 宗教法人 真如苑	0	2,000,000
10.経済産業省	150,000	0
11.佐賀県	500,000	0

［ 上記に伴う各案件名 ］
(1) ロカプッス村協同組合組織化によるコミュニティ・レジリエンス向上支援事業 / (2) ブルンジ農村部コミュニティにおける社会的弱者世帯の自立と自治支援プロジェクト
(3) ウガンダ北部における農業・畜産支援による貧困削減事業に係る後方支援事業 / (4) ウガンダ北部地域における元子ども兵社会復帰支援事業
(5) 地雷埋設地域の脆弱な障害者家族への生計向上支援プロジェクト
(6) 産学民連携による持続可能な森林保全のための自然共生型産業の普及活動 ラオス不発弾汚染地域における養蜂の技術向上と普及を目指した"Farm miel" プロジェクト
(7) 中央カサイ州における分野横断型職業訓練センター建設及び紛争被害女性のエンパワーメントプロジェクト / (8) 南スーダン難民居住区及びホストコミュニティにおける自立支援プロジェクト
(9) 南キブ州における子どもの徴兵予防プロジェクト / (10) IT導入補助金 / (11) 佐賀県誘致CSO活動支援補助金

貸借対照表（2019年3月31日 現在）

（単位：円）

Ⅰ 資産の部			Ⅱ 負債の部		
1. 流動資産			1. 流動負債		
現金預金	47,058,589		買掛金	236,212	
売掛金	3,799,352		未払金	5,347,529	
未収金	4,100,515		前受助成金	34,576,435	
商品	6,560,980		預り金	751,023	
立替金	31,431		未払法人税等	223,000	
マイクロクレジット	1,724,503		未払消費税等	830,700	
流動資産合計	63,275,370		流動負債合計	41,964,899	
2. 固定資産			2. 固定負債		
有形固定資産	13,802,799		長期借入金	7,353,866	
投資その他の資産	490,000		固定負債合計	7,353,866	
固定資産合計	14,292,799		負債合計	49,318,765	
資産合計	77,568,169		Ⅲ 正味財産の部		
			前期繰越正味財産	60,008,696	
			当期正味財産増減額	▲ 31,759,292	
			正味財産合計	28,249,404	
			負債及び正味財産合計	77,568,169	

監査報告書

2019年5月24日

特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス　理事長　小川真吾　殿

特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス　監事　鯉田勝紀

私は、平成30年4月1日から平成31年3月31日までの平成30年度における会計及び業務の監査を行い、次の通り報告する。

1、監査の方法概要
（1）会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など、必要と思われる監査手法を用いて計算書類の正確性を検討した。
（2）業務監査について、理事から業務の報告を徴収し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討した。

2、監査意見
（1）活動計算書、貸借対照表及び財産目録は会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支状況及び財産状態を正しく表示していると認める。
（2）業務報告書の内容は真実であることを認める。（3）理事の業務執行に関する不正の行為、又は法令もしくは定款に違反する重大な事項はないと認める。　以上

原本は別途保管しております。

Terra Renaissance

ひとり一人に未来をつくる力がある

認定NPO法人 テラ・ルネッサンス

〒600-8191 京都府京都市下京区五条高倉角堺町21番地 jimukinoueda bldg. 403号室

TEL：**075-741-8786**　FAX：**075-741-7965**　E-mail：**contact@terra-r.jp**

HP：www.terra-r.jp　Facebook：terra.ngo　Twitter：@terra_ngo

2018年度・年次報告書は株式会社オピカの技術協力により、無償で印刷いただきました。

本書の一部または全てを複写・転載引用する際には、予めテラ・ルネッサンス事務局までご連絡ください。 ©2019 Terra Renaissance

発行◎ 2019年8月　/　デザイン◎ 小田起世和　大木美登里　戸田優希子